

毎週日曜発行 2022 11/13

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうのテーマ

外に住む人がやって来て、その土地の魅力や体験する観光は、地方の文化や産品を広め、働く場所をつくりだすので、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の8番目「働きがいも 経済成長も」



地球のためにできること

地方の文化、産品を広める

みんな思い出

「くりはらツーリズム ネットワーク」は、栗原市に住む会員約100人でつくる組織。2010年に設立され、会員と観光客と一緒に料理を作ったり、農作業をしたりする体験プログラムを提供しています。

農家は田植えや稲刈りを、そば屋さんはそば打ち、林業を営む人はまき割りなど、それぞれの得意分野を生かしたメニューで活動します。

事務局長の大場寿樹さん(48)は「地域に昔から伝わる料理や生活習慣など、現代ではニーズが

につながるんだ。地元産業を、うまく観光資源にしている栗原市の団体の活動を紹介しますよ。



観光客との交流で元気に

ないと思いついて入っているものでも、見せ方を工夫すると観光客は興味を示す」と話します。



例えば、郷土食「がらんづき」作り。住民は「こ

く普通の食べ物作り体験に人が集まるだろうか」と心配しましたが、参加者は「食べたことにはあるけど、作ったことがない」と喜んでそうです。

栗原市は2005年に10町村が合併してできた。国内有数の渡り鳥



昔ながらの田植えに挑戦(ちょうせん)する観光客
=2018年6月、栗原市(くりはらツーリズムネットワーク提供)

の飛来地「伊豆沼・内沼」や自然豊かな栗駒山、旧くりはら田園鉄道(愛称くりでん)の廃線跡を利用した公園など、観光スポットがあります。



ネットワークは、観光スポットを生かしながら、さまざまな体験を通じて栗原市の魅力をアピールしています。体験を重視するのは、一緒に作業することで観光客とつながり、会員が刺激を受けるからだそうです。

大場さんは「10年以上続けたらいろんな人が活動するようになり、輪が広がった。自然が豊かな地方に根付く文化を、次の時代に残していきたい」と意気込んでいます。

◇ みんなの周りにも人を呼べる面白いものがないか、アイデアを出してみよう。

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

今週の注目ニュース

◇19日(土) 世界トイレの日
世界には、排せつ物を衛生的に管理・処理できるトイレを使えない人が約20億人もいるんだ。細菌に感染して、命を落とす子どももいるんだって。みんなで決めていこうと、国連が2013年に制定したよ。

かほくの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 かほく防災記者 1期生レポート